**茶室・松韻亭の見どころ**

伝統的な茶室の大半は装飾がほとんどない閉鎖された空間ですが、松韻亭の主棟は明るく風通しがよく、外の庭園に向けて開けています。着物姿のスタッフが地元静岡県産の煎茶や宇治（京都南部）産の抹茶でもてなしてくれます。

松韻亭では、歴史に名高い茶の湯を絵のような状況の中で体験できます。もともと茶は、仏教の僧侶が宗教行事に用いる目的で日本にもたらしました。茶に関する最初の記録は、日本の公式の歴史書で嵯峨天皇（786～842 年）が編纂を命じ 840 年に完成した『日本後記』にあります。今日知られている現代の茶道は室町時代（1336～1573 年）に発展したもので、禅宗の影響を強く受けています。

伝統的な茶道は参加者が畳に座って行います。主人も客も、両ひざを畳んで床につけ上半身を直立させる「正座」の姿勢をとります。この姿勢は、最初は座り心地が悪いかもしれないので、松韻亭では正座をしなくても済むようにテーブルや椅子を備えた立礼式の部屋（立礼席）を用意しています。